

分裂、強ち悪いとは限らないもの ルカ12:49~56 / 李正雨師

私は幼い頃から、分裂は悪いことだという言葉聞きながら育ってきました。おそらく、韓国は世界唯一の分断国家であるからだと思います。1950年、南北戦争から韓国は分裂してきました。北朝鮮の状況はよく分かりませんが、韓国は、3年間の戦争だけでなく、戦争の後にも、赤狩りということをしました。そのため、多くの共産主義者たちが捕まって刑務所に入り、命を失った人もかなりいました。そして1961年、韓国では軍部のクーデターが起き、軍人たちが政権を握るようになりましたが、彼らは、共産主義から民主主義を守るというスローガン掲げ、民心を得ました。これは分断国家でよく利く戦略でした。これによって、軍部政権が26年間も維持されたからです。

しかし皮肉なことに、民主主義を守ると主張した軍部政権は、むしろ民主主義を抑圧しました。軍の独裁のために、彼らは自分たちに反対する人々を共産主義者に追いやりました。この時、最も多く登場した言葉は、赤という言葉でした。軍部政権は、民主化運動は共産主義者たちがすること、平和な国に分裂を助長することだと言いました。これは、ニュースや新聞などを通して全国的に広がっていきました。このためか、今もお年寄りの中には、このような考え方をしている人々もいます。ところが面白いのは、民主化運動をしていた人々の中には、神学生と牧師、神父と司祭がたくさんいたというのです。当時、多くの教会は、民主化運動によって手配された人々を隠してくれただけでなく、民主化運動を繰り広げました。もちろん、すべての教会がそのようにしたわけではありませんでした。しかし、当時の多くの教会は、軍の独裁に反対し、自らが分裂を引き起こす人という汚名を喜んで受け入れました。分裂を引き起こす人々の集まり。それが当時の教会の姿の一つでした。

このように分裂というものは、必ず悪いわけではないと思います。必要によって分裂は起こることがあるのです。もう一つの例を挙げてみましょう。私たちは、ルーテル教会の信徒として、ルターの宗教改革の精神に従っています。そして、その宗教改革の精神を私たちの信仰の遺産だと思っています。しかし、宗教改革当時のルターは、既存の教会から分裂を助長する者だと言われました。教皇レオ10世は、ルターは「主のぶどう園を掘り返すイノシシ」と非難しました。私たちの観点からは宗教改革でしたが、既存の観点からは分裂だったのです。このような考え方を持って今日の福音書を見ると、今日の福音書の意味が理解できると思います。

今日の福音書でも分裂という言葉が出てきます。これはイエス様によって起こる分裂です。平和の王であるイエス様の分裂とは、信徒である私たちには、受け入れにくい言葉だと思います。しかし、イエス様はこの受け入れにくい言葉を語られました。49節の言葉から見ましょう。「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」イエス様は、ご自分がこの世に来たのは、地上に火を投ずるためだと言われます。ここでの火は、いろいろな意味に解釈することができますが、その一つは、イエス様の洗礼を意味します。ルカによる福音書第3章16節に、洗礼者ヨハネは、イエス様の洗礼についてこのように言います。「わたしはあなたたちにみずで洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる… その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」この言葉によると、イエス様はご自分の洗礼をお授けになるために、この世に来られたということが分かります。

しかし、この洗礼のことは、うまく進みませんでした。イエス様はこの洗礼に火がつくことを願われましたが、そうなりませんでした。そして、イエス様には受けねばならない洗礼、すなわち、十字架がありました(50節)。イエス様のことを理解しない人々、イエス様が受けねばならない十字架、イエス様の働きを妨げて反対する勢力など、このようなことはイエス様を悩ませました。ヨハネによる福音書1章5節には、これを

このように表現しています。「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」人々は光として来られたイエス様を受け入れませんでした。

イエス様は、このような状況で分裂について語られました。今日の福音書51節の言葉です。「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。」この言葉は、平和な人々のところに分裂を起こすというのではないでしょう。分裂を助長してこの世界をひっくり返すというわけではありません。彼らが望む平和、真理を欺く平和、偽りの平和はもたらさないということです。イエス様は、神様の御心、つまり真理と命について語られます。しかし、神様の御心が分からないこの世は、イエス様に対して反対するのです。過去、政権を持っていた者たちが主張したように、既存の勢力が非難したように、イエスは分裂を起こす者だと言うでしょう。イエス様がおっしゃった分裂というものは、まさにこれを指すことです。真理と命による分裂。これが当時と今の私たちに起こる分裂なのです。

そして、このような分裂は、私たちの最も基礎的で小さなコミュニティの中で起こることもあります。イエス様は、この分裂が家族の間でも起こることがあると言われます。だからといって、家族を分裂させることがイエス様の目的ではありません。福音が家族の中に入ったとき、家族の反対によって分裂が起こる可能性もあるということです。しかも、イエス様の時代のユダヤ教は、今の宗教とは違いました。

当時のユダヤ教は、宗教だけでなく、民族のアイデンティティを意味しました。つまり、ユダヤ人として生まれたら、ユダヤ教に従い、信じることは当然のことでした。ユダヤ教は、ユダヤ人の精神と信念と信仰、すべてのことをまとめることでした。他の宗教を持つことになれば、ユダヤ社会から追い出されたこともありました。律法を守らなければ、ユダヤ社会から罰を受けました。ですから、このような状況の中でイエス様に従うというのは、分裂を起こすことと同じでした。それでイエス様は、家族の分裂をおっしゃったのです。当時には、いくらでも起こりうることだったからです。そして、今でもこのような分裂が全くないわけではありません。イエス様の福音は、人々が望んでいる平和、真理が排除された平和だけを与えることではないからです。それで、イエス様は時を見分けなさいと言われます。56節の言葉です。「偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。」

イスラエルだけでなく、私達も空と地の模様を見て、起こることを見分けてきました。「夏に南風が吹くと晴れ」という言葉もあり、「北風は晴れ、南風は雨」という冬の天気のことわざもあります。「ツバメが低く飛ぶと雨」という言葉もありますね。このように、私達も空と地で起こっていることを見て、天気を見分けました。イエス様は、私達が起きていることを見て、次のことを見分けるように、時を見分けなさいと言われます。今はどんな時なのか、何が真理であり、何が命なのか、私達は見分けなければなりません。私達のところに分裂が起こったからといって、それが完全に悪いわけではありません。何による分裂なのか、私達が自分たちの平和だけを求めたことはなかったかを考えてみなければなりません。

使徒パウロは、エフェソの信徒への手紙5章16-17節でこう言います。「時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。」主の御心を理解すること、時を見分けること、これが今の時代を生きている信仰の人々に求められる姿勢だと思います。すべてのことに先だって、まず主の御心を求める皆様になりますように願います。そうすれば、私たちの考えとは違うことが起こったとしても、私達は、すべての状況を見分けることができるのです。神様が皆様に知恵を与えてくださいますように。どんな状況でも神様を信頼し、従う皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン